



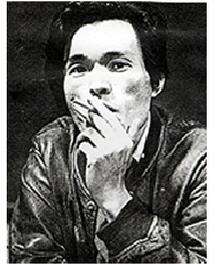
熟塾七夕朗読会・第二段 祝織田作之助生誕100年記念

解説と朗読と食べ歩きで巡る織田作之助が闊歩した【道頓堀】

日時 **2013年 7月7日(日)七夕**・午後2時～7時半

解説：大阪市立中央図書館 副館長 高橋俊郎氏 & 朗読：熟塾 代表 原田彰子氏

会場：ギャラリー“香”・4階



大阪市中央区道頓堀1 10 7 TEL:06-6212-7750

地下鉄御堂筋線・千日前難波駅 番出口北へすぐ 道頓堀筋 松竹座前

スケジュール:

午後2時～4時半：解説と朗読で巡る織田作之助が描いた「道頓堀」(蓄音機による演奏付)

会場：ギャラリー“香” 4階 (お茶・茶菓子付)

午後4時半～5時：織田作之助が歩いた道頓堀界限散策

午後5時～7時半：織田作之助風道頓堀界限食べ歩き(コースは当日発表)

会費：5,000円 (レクチャー・道頓堀散策・食べ歩き代)

レクチャー・道頓堀散策のみ(1,000円) (定員:30名様)

1913年(大正2年)大阪市南区生玉前町(現・天王寺区上汐4丁目、生魂小学校正門前付近)にて、仕出屋(後に『一銭天麩羅屋』に業態変更)「魚春」の織田鶴吉、たか系の長男として生まれた織田作之助。小説『夫婦善哉』で広く世に知られる大阪生まれの織田作之助(1913-1947)。彼が生まれて今年でちょうど100年となります。死ぬまで「大阪」に拘り続けた織田作之助。



旧高津中学から三高(京都大学)へと進んだ彼はスタンダールの影響を受けて、小説家を目指します。昭和13(1938)年、処女作『雨』で文壇の注目を集め、14年には、代表作となる『夫婦善哉』を発表しました。戦後は、『土曜夫人』の連載などで活躍。坂口安吾らと並んで「無頼派」として将来を期待されるも、22年、結核により35年の短い人生に幕を下ろしました。たった7年間の作家生活の中で書かれた五十数編の短編小説の中には、大阪人の暮らしの機微とともに道頓堀界限の様子が事細かに描かれたものがたくさんあります。

七夕に出会う織田作之助とのキーワードは【道頓堀】

『夫婦善哉』では主人公の柳吉と蝶子のうまいもん巡りの様子が詳細に描かれ、『アド・バルーン』では、主人公の少年が継母に連れていってもらった大人の街・道頓堀の様子が生き生きと綴られています。『女の橋』『船場の娘』『大阪の女』の三部作では、ストーリーの節目に道頓堀の太左衛門橋が舞台になるなど、織田作が実際に道頓堀界限によく出かけては、その風情や情緒、グルメなどを大いに楽しみ小説にも描いています。

織田作之助の作品について解説と朗読で巡り、足跡を訪ねて実際に道頓堀界限を散策。

更に、織田作之助生誕100年目の七夕の星降る夜に、織田作之助が闊歩したように道頓堀界限を食べ歩きます。



熟塾七夕講座 祝織田作之助生誕100年記念

解説と朗読と食べ歩きで巡る織田作之助が闊歩した【道頓堀】参加申し込み:

電話:090-8381-0150

熟塾ホームページ <http://www.jukujuku.gr.jp> ・ e-mail :BXI05250@nifty.com

にお名前・お名前・ご住所・電話番号をお知らせください。

8月10日(土)午前11時半～午後1時『路次建・画文集 路地の愉快・水辺の至福出版記念ランチミーティング』塾生の秋山建人さんが退職10年で絵師を目指し1000枚の作品を書き上げ、8月に『路・画文集 路地の愉快 水辺の至福』を出版し、道頓堀・松竹座前ギャラリー“香”で個展を開催します。(会期:8月8日(水)～13日(火)表通りにはない路地の味わい、水辺の癒し。仕事に追われる日々の中で見失っていた大切なそして優しい空間と時間を、どのように描いてきたのか。退職後の、新しい発見、生き方も交えて、個展に出展していない作品と共にランチしながら紹介いただきます。